

# 2009年5月内間木洞窟救助勉強会報告



小林 日 (KOBAYASHI, Ayumi)※

2009年のゴールデンウィーク、5月2日から6日にかけて岩手県久慈市にある「内間木洞」で、日本洞窟学会洞窟救助委員会主催の洞窟救助勉強会が行われた。参加者は、北は青森、南は山口までの社会人・学生ケイパー、内間木集落のガイド、近隣市町村の消防士、総勢46名。

5月3日はグループに分かれて洞外で個々の技術の確認をした。担架の使い方、ストレッチャーリレー（狭い場所で担架をバケツリレーのように先に送り出す手法）、チロリアンブリッジ、カウンターウェイトを用いた搬送法など。

夜は、昼に行った技術の確認と翌日のミーティング。総合演習では、現場の整理整頓や自己の安全確保といった基本を大切にすること、丁寧に負傷者を扱うことに重点を置くことが確認された。

5月4～5日は総合演習として事故現場から洞口まで負傷者役を入れた担架を搬出した。

とにかく事故発生から、洞外への搬出完了までをぶっ通しで総合的に実践する。これが今回の目玉であった。



ストレッチャーリレーの練習



消防士への講習

## 【事故発生】

5月4日7:00、榎島啓子洞窟救助委員会副委員長が調理用おたまとボウルをガンガン打ちならした。「事故発生！事故発生！」えっーっ。昨晚のミーティングでは、確か起床時間は8時だったはず!? 不意におこる実際の事故に少しでも気持ちを近づけようというシナリオだった。これからどんな状況が伝えられ、どんな指示が与えられるのか、一部の救助本部担当者以外は誰も知らされていない。寝ぼけ眼をこじ開けながら、事故状況の説明を聞く。

「内間木洞」は総延長6000mを超える横穴で、主に4つの大きな支洞に分けられる。その1つである「稲妻洞」の最奥付近、「銀河の滝」の下で榎島と活動していた石川が負傷したと伝えられた。仮定事故

現場までは洞口から600m程度の横穴で、数カ所で最大10m程度登り降りする箇所がある。洞口付近は広いホールだが、支洞「稲妻洞」に入ると幅数メートルの直線的トレンチ部分が多い。洞奥のほうでは滴水が多く、天井高の低い水流や、狭いチムニーも存在する。

## 【救助本部設置】

事故状況が説明されると、救助本部が設置され、救助本部員が指名された。本部長、人員管理係、装備管理係などである。救助本部は洞外の光熱水道が整った場所に設けられ、全体の指揮を執る。あらかじめ用意された本部のサイン、受付表示などが貼り出された。本部内では、装備管理はパソコン上の表で、

内間木洞（洞口～稲妻洞）縦断面概念図

